留学体験記

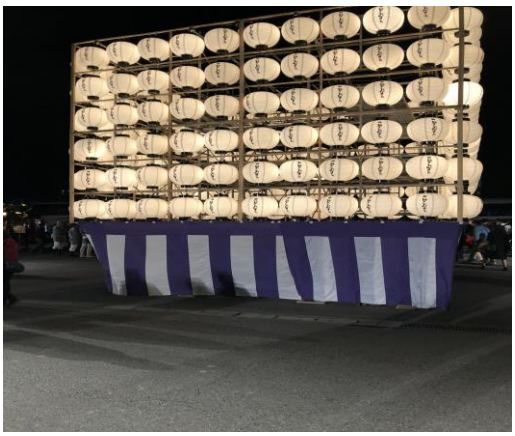
マカオ大学　交換留学生　潘馬烽（パン バ ホウ）

留学期間　2018 年 9 月～2019 年 8 月

私は日本に留学する前は、普通の大学生に過ぎなかった。毎日学校へ行き、授業が終わった後で家に帰るという退屈な生活を繰り返していた。本来、そのままで大学生活を終わらせて、普通の社会人になり、退屈な生活を続けるつもりだった、しかし、年をとったら、必ず後悔すると思った。そこで、新しい生活を体験したり、目標を作ったりするために、日本に留学すると決めた。

鹿児島に来て、一番感じたことは空気である。マカオの空気は悪いので、鼻炎で私はずっと困っていた。しかし、鹿児島の空気はきれいなので、この一年間あまり鼻炎を誘発されなく、快適に過ごした。

そして、一番困った問題は、日本人が話すスピードが速いことだ。以前、日本の番組やドラマなどを見ていた時は、いつも字幕が付いていたので、分かりやすかった。また、学校の先生に話していた時は、先生が私に分からせるために、ゆっくり話してくれた。しかし、実際に日本人と話すと、全然追いつかない。今まで勉強した日本語の知識は全然役に立たないようだった。しかし、この一年間で、友達からたくさん助けてもらったので、だんだん慣れてきた。誠に感謝している。

マカオを離れ、外国で一人で暮らしをして、色々なことを感じた。特に両親の大変さを一番感じることができた。毎日家事や学業などを続けるのが大変だった。一方、両親は毎日このようなことを繰り返していても、文句を一度も言わない。私の両親は本当に偉い人だと感じた。

この一年間の留学経験を通じて、当然、私の日本語能力は上達した。それ以外に一番影響されたことは私の思想だ。いつも簡単と思ってることが実際に体験すると、全然違った。世の中に必然なことはない。どのような小さいことも全力で行うべきだ。この経験をマカオに持って帰って生かし、立派な人になりたいと思う。